

Kobe

神戸まつりガイド



モデル／浜野豊子さん
ジョン・アルカイヤ君

北野町の坂道の白い館
街のにぎわい、そっとめけだして
今日のおまつりの見どころを
考えたり、友達に絵はがきを書い
たりします

レンタサロン・コーヒーショップ

ルカ・カルトン

神戸市生田区北野町3-67-2
TEL 241-4321-2
A.M.10:00-P.M.12:00



トアロードを降りたら、ファンタスティックな扉を
あけて、かわいいぬいぐるみ、おみやげにして
赤い風船もらって出かけましょう

服飾とおしゃれ小物

スギヤ

トアロード店 331-3436
六甲店・阪急神戸店
心斎橋店・梅田店
宝塚店

婦人服地とお仕立ての店

コマツヤ

神戸・三宮センター街2丁目
TEL 331-1833・391-8809
さんちか店 TEL 391-5217
さんプラザ店 TEL 331-0607



ウインドーのお祭りにかいた
落書きみながら、のぞいたら
夢みるような可愛いプリントが
いっぱい、そんなおしゃれな
布地買っちゃおう





KENT SHOP

フナキヤ

神戸元町3丁目
TEL 321-0356

手と足が長い彼にでも
びったりのサイズがある
なんてびっくり。
木造りの店内が私の好き
な店のひとつ。KENTの
トフッドな商品が
いっぱい。

舶来地のシャツがいっぱいあって、今は夏の
シースルーがいっぱい。彼とおそろいのシャツ
ドレスもできます。とっても大人っぽい店だ
から好き。

神戸シャツ

神戸/大丸前 TEL 331-2168
東京/東急・渋谷 TEL 462-3433
東急日本橋 TEL 211-0511
広島/広島福屋1F TEL 47-6111



Fairy

5月の風にさそわれた



おしゃれグラス

神戸眼鏡院

神戸元町3丁目 TEL 321-1212
神戸三宮さんかタウン
TEL 391-1834-5



ノッポの
彼と2人で
サングラス
の百面相
ごっこ。
テレビの
ミラーマン
みたいな
サングラス
かけて
喜びが合
いました。



ピア・ホール

ニュー・トーキョー

神戸三宮さんかタウン TEL 391-5069

生田区樟筋 TEL 331-1422

三宮ピアガーデン(三宮ビル) TEL 221-3598

三神ピアガーデン TEL 331-5520

Fairy Kobe

5月の風にさそわれた神戸まつりガイド

5月はもうビールの季節、今日の祝日に乾杯！汗をかく程の時間に冷めたいいビールがキューンと通ってて。バザールで搜したアクセサリーが今日の宝物 VIVA CARNIVAL!



せっかく KOBEへ来たんだから神戸ステーキ食べましょと彼にねだって、トアロードのレンガのお店へ到着。お肉いっぱい食べて明日はハレードへ飛び入りしようかしら。
ステーキ ¥1800より

ステーキハウス

れんが亭

生田区下山手ミ丁目トアロード
TEL 331-7168



噴水広場でゴーゴー踊ってグツグツ、でもまだものたりなくて、白いお店の外まで聞えてくる生バンドのジャズやロックにひき込まれ、また踊ってしまったの。おまつりの最後の余韻残してくれる店なのです。

mission de mode

花屋敷

神戸三宮タワウロード市役所前
TEL 251-2109





baLon antique series

I 珈琲ミル

コレクター
岡田英男さん
〈六甲ギャラリー〉



才月の年輪が何げなく 滲む
古いスペインの
珈琲ミルと珈琲わかし。
毎日の台所の片隅で息づいた
無口な、暖かい心が。
こちよく
私を包んでくれるのです。



英国風喫茶・レストラン

バロン

神戸三宮サンブラザ地下
TEL 078(391)1758



る。榎田さんの手に触れると、人形が表情豊かな生きた人間のよう
うに動きだすから不思議だ。

妖艶な女形の首(右上)と若女形を巧みに遣う榎田さん(左)



北神戸をゆく

(5)

原野の「山田文楽」

黒部

亨
《作家》



梶田さんの手にかけると人形が人間のように踊りはじめる

郵政省は今年三月一日から、「文楽」を題材にした郵便切手を発行した。古典芸能シリーズの一つで、「熊谷陣屋」「野崎村」「阿波の鳴戸」の三種類、計八千二百萬枚。黒子が人形をあやつる名場面を多色刷りで表わした図柄だが、なかなか好評を博しているところを見ると、文楽に対する日本人の郷愁は、いまなお根づよいものがあるようだ。

兵庫県は文楽発祥地としての長い伝統と誇りをもっている。人形芝居はもと中世からあらわれたが、近世に他の芸能と交渉をもって展開した。たとえば本県では、西宮の夷神社を本拠とする傀儡師(漂泊芸人)と、三味線伴奏による浄瑠璃語りとが提携して近世的な人形芝居が生みだされ、他の説経節系のもを押さえて隆盛をみせた。

その後、京・大阪・江戸の三都が交通して種々の流派を生んだが、竹本義太夫が竹本座を設立するに及んで、しだいに主流が義太夫節に統一された。だから文楽は一口に言って、義太夫節という浄瑠璃を使つて演ずる人形芝居ということになる。

「文楽」の名は、淡路出身の植村文楽軒と



畳の上に並べられた50個あまりの人形は柳田さんの貴重な財産でもある

幕の上に高く差しあげて遣ったものだが、現在はすべて人形遣いの姿を見せる「出遣い」という形式で行なわれている。山田文楽もそうである。



神戸電鉄箕谷駅の西方二キロ。山田町原野に住む柳田菅治さん（73）は、山田文楽の孤塁を守る最後の人形遣いである。朝若という芸名で男役の人形を遣い、この道にはいつてすでに六十二年になる。

柳田家の土間から座敷へ上がってみると、収蔵箱からとりだされた人形の首が五十コあまり、薄暗い部屋の中に、一種の妖気を漂わせてならべられていた。奥座敷のコタツにはいつて、当主の菅治さんからしばらく文楽談義を聴く。

「浄瑠璃はもと薬師如来から発生したものでやそうです。人間の苦楽を劇化したものでんな。説経節という短篇浄瑠璃がおますけど、あれは坊さんの説教を聴かない百姓たちに、色気をつけた浄瑠璃にしてわかりやすく教えたものでっしゃるな。この山田の人形芝居は、ずいぶん古いものでんねやで。江戸時代には禁止になったこともありました。でも、子供芝居の小さな人形は使うておったようです。神さま供えたわけでした。享保から宝暦にかけてのころが、いちばん盛んだったと聞いたります」

柳田家のあるこの山裾は、旧原野村の元戎といわれている。その小字名から推察して、人形芝居発祥の地といわれる西宮戎や傀儡師に、何らかの関係があったのではないかと思われる。

それを裏づけるように、近くの天津彦根神社の境内に人形芝居系の農村舞台がいまものこっている。専門家の調査によると、正徳二年完成のかなり古い形式のものらしく、全国的にもめずらしいという。

「このあたりは、神社からみて出雲族だったと思います。出雲といえは出雲の阿国でも知られるとおり、歌舞の発祥地でした。当然、その進出も考えられる道理です」

劇の進行は太夫と三味線弾きによって行なわれ、彼らは観客席から舞台にむかって右側に斜めに坐る。初期の人形劇では、人形遣いは幕の中にかくれて、人形だけを

櫛田さんはひとときわ素朴なつくりの首を一つとって見せた。慶長年間（一六〇〇年ごろ）のものだという。手にとってみると子供のこぶし大で、他のものより重い。古い形式のものほど形が小さく、まゆは筆で描いたものが多い。口や目の動かない木偶である。所蔵品のうち古型が十一個あるという。

山田文楽で使用する人形は、大阪文楽座のものよりひとまわり大きく、衣裳をつけると普通八キロ近くになる首の柄（胴串）に「天狗久」「人形忠」など、製作者の焼印名がはいっているが、大部分は無銘である。

「人形は呼び名、使い道がきまっております。時代物と世話物に分かれています」

櫛田さんが首を一つ一つとって説明する。「丸目」というのは豪傑につかう人形で、安倍宗任・曾我五郎などの役。「別師」は大將格で、さしずめ源義経役。とすれば「角目」は熊谷直実というところである。「家老ガシラ」は知恵者の役で、たとえば諸葛孔明か菅原道真ということになる。そのつもりで見ると、なるほどみなそれ



櫛田さんの話を聞きながら、人形を手にとってながめる筆者

らしい顔をしている。

「ヨリト」は年寄り、「セワヨリト」が百姓町人「中丸」がカタキ役の下っ端。追われて逃げる役の「ハナムケ」もある。女形は若女形が美しく、まゆを落とした白髪が老女形。庶民におなじみの「オカメ」「ヒョットコ」もあれば、顔が縦にバツクリ割れる特殊ガシラの「ナシワリガシラ」もある。

首の中に赤色と白色がある。

「赤肉のほうは、日に焼けたところをあらわしてまんね。白肉のほうは家の中いうことです」

なるほど、そこまで細かく工夫されていたのかとおどろく。塗りも厚くなめらかで、つややかな光沢を放っている。いずれもツゲの木で作っているのは、ツゲが割れ目のこない木だからである。

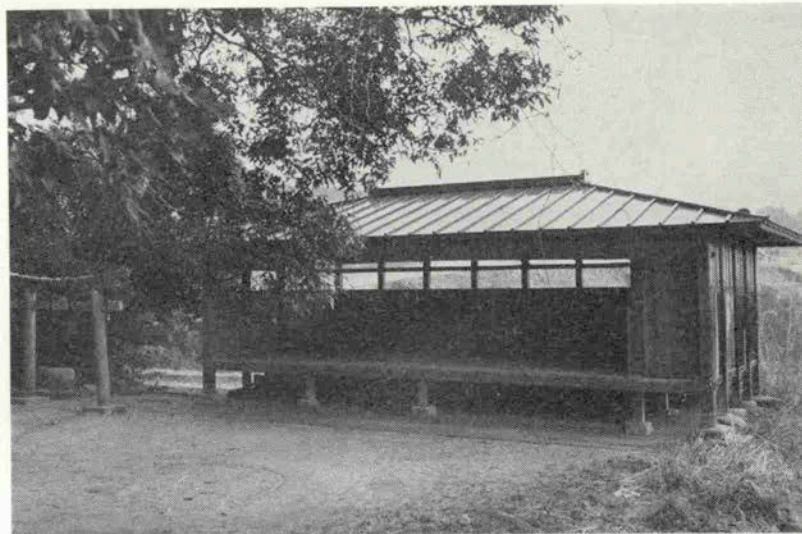


山田文楽は、淡路のそれに比べて規模が小さく、座員は原野部落の同好者十数人によって構成されていた。ほとんど農業だから、農閑期にお宮の境内や仮設小屋などに集まり、吊り舞台上にシコロ幕を張って人形芝居を楽しんだ。一座結成いらい八十数年。櫛田さんの先代駒吉さんの代にもっとも隆盛をきわめた。

「祖父の代までは庄屋でしてな。父の代にすっかり落ちぶれてしまっています」

と、櫛田さんは苦笑する。

駒吉さんは生来、浄瑠璃や芝居の好きな芸人気質の人だったが、若いころ大阪の文楽を見て大いに発憤。自らも竹本文楽と名乗り、わざわざ阿波の徳島へ乗りこんで、同地のメヌキ屋（面作り師）に首を作らせた。ちやうど明治天

[illegible]

駒吉さんが一座を結成したのは日露戦争のころだった。むろん彼が座長で、副座長格は同地に住む女形遣いの古川玉次郎さんだった。素人の百姓たちが人形浄瑠璃一座の旗上げをしたのだから、さぞかし威勢天をつくものがあつたことだろう。

おかげで櫛田家の家産はますます傾き、田畑も少しずつ人手に渡っていった。かんじんの人形の首も、もとはもっとたくさんあつたのだが、背に腹はかえられず他人へ譲り渡したという。

の伝授を受けさせるというほど熱中した。近辺の親しい芸人たちも、数多く同家の世話になっている。いわば当時の櫛田家は、文楽の梁山泊の観があった。むろん、そんなぜいたくができたのも、資力があつたればこそである。櫛田家は屋号を「くしや」といい、代々近隣に知られた資産家だった。文政四年（一八二一）に江戸表に申告した文書には、「凡五百年、摂州八田郡都山田庄原野岡田勝左衛門分家持高四石五斗六升八合くしや三右衛門」とあり、五十町歩ほどの田畑があつた。

それらの財産も、やがて失なわれていった。駒吉さん

皇が須磨に行幸された年で、いわば記念事業のつもりだった。現在櫛田家所蔵の中に、明治二十四年と墨書した首があり、当時の作を証明しているが、他の首もほぼその前後数年間に製作されたものと思われる。

人形の首はきわめて高価で、現在でもすぐれたものは一個数十万円はするという。駒吉さんは大金をふところにして徳島へ行き（阿波の米はまずいと言って、自分の家の米をかついて行つた）首ができあがるまで現地に逗留した。

皇が須磨に行幸された年で、いわば記念事業のつもりだった。現在櫛田家所蔵の中に、明治二十四年と墨書した首があり、当時の作を証明しているが、他の首もほぼその前後数年間に製作されたものと思われる。

人形の首はきわめて高価で、現在でもすぐれたものは一個数十万円はするという。駒吉さんは大金をふところにして徳島へ行き（阿波の米はまずいと言って、自分の家の米をかついて行つた）首ができあがるまで現地に逗留した。

皇が須磨に行幸された年で、いわば記念事業のつもりだった。現在櫛田家所蔵の中に、明治二十四年と墨書した首があり、当時の作を証明しているが、他の首もほぼその前後数年間に製作されたものと思われる。

人形の首はきわめて高価で、現在でもすぐれたものは一個数十万円はするという。駒吉さんは大金をふところにして徳島へ行き（阿波の米はまずいと言って、自分の家の米をかついて行つた）首ができあがるまで現地に逗留した。

皇が須磨に行幸された年で、いわば記念事業のつもりだった。現在櫛田家所蔵の中に、明治二十四年と墨書した首があり、当時の作を証明しているが、他の首もほぼその前後数年間に製作されたものと思われる。

人形の首はきわめて高価で、現在でもすぐれたものは一個数十万円はするという。駒吉さんは大金をふところにして徳島へ行き（阿波の米はまずいと言って、自分の家の米をかついて行つた）首ができあがるまで現地に逗留した。

皇が須磨に行幸された年で、いわば記念事業のつもりだった。現在櫛田家所蔵の中に、明治二十四年と墨書した首があり、当時の作を証明しているが、他の首もほぼその前後数年間に製作されたものと思われる。

人形の首はきわめて高価で、現在でもすぐれたものは一個数十万円はするという。駒吉さんは大金をふところにして徳島へ行き（阿波の米はまずいと言って、自分の家の米をかついて行つた）首ができあがるまで現地に逗留した。

皇が須磨に行幸された年で、いわば記念事業のつもりだった。現在櫛田家所蔵の中に、明治二十四年と墨書した首があり、当時の作を証明しているが、他の首もほぼその前後数年間に製作されたものと思われる。

人形の首はきわめて高価で、現在でもすぐれたものは一個数十万円はするという。駒吉さんは大金をふところにして徳島へ行き（阿波の米はまずいと言って、自分の家の米をかついて行つた）首ができあがるまで現地に逗留した。

◇
当主の櫛田さんは、十歳のころから父の駒吉さんについて手ほどきを受けた。

古川玉次郎さんの子承一さんも、松雀と名乗ってやはり父から人形を習い、二人は小さいときから父親の人形の裾をやらされた。文字どおり父子相伝の名コンビである。

「あのころは、ずいぶんとあちこちに巡業に行ったものですわ」

と、櫛田さんは感慨ぶかけに目を細める。

大正の中頃は全盛期で、櫛田さんは父について有馬、美濃、明石郡内六十か所を巡演した。神戸新開地では三十日間の長期出演をしたし、京都では十六日間も打ち、三日間は木戸満員札留も記録した。もちろんその期間中家業はそっちのけである。

近くは昭和二十九年三月、神戸オリエンタルホテルで外国観光団に披露。大好評を博して県から感謝状をもらった。当然、外人ファンもいる。アメリカのダートマス大学のウイリアムズ教授もそうだし、前ドイツ総領事のメーブス夫人のごときは、「これこそ日本人のチームワークの芸です。ぜひミュンヘンに来て上演してほしい」と、すすめたほどである。

むろん修業中は苦しかった。長いもので四十分から五十分かかる。その間、両手十本の指をフルに活動させるわけだが、人形それじたいがかなりの重量ときている。「首のほかに衣裳がありますやろ。人形に荷物をかつがせたり、刀をさしたり、切腹のときは髪をさばいたりせなあきませんからな。傾城の衣裳など、とくに重いものですよってなあ」

最高十五キロの重量だから、手がだるくなって苦しい目玉、まゆ、口、うなづきなど、動作の種類も多く複雑である。みな指先一つでやっていく。まちがいは許されないのだ。

指の動きが異常に発達するのも当然である。おかげで

櫛田さんは、全日本珠算段位認定連盟から、名誉三段の段位を贈られている。指が常人よりも自由自在に動くのも、六十年の修練のせいである。

首の一つ一つをよく見ると、八十年間の活躍を物語るように、どれもいたみがひどい。戦時中に損傷したものが多くという。ことに顔の各部分を動かす小ザル（栓）の糸が切れているのが多く、首を割って修理しなければならぬものもある。首だけではない。付属品の衣裳、小道具、ホンゾク（足）、つかみ（手）なども満足なのは少なくなった。

人形のいたみは、そのまま文楽そのものの存続に、暗い影を投げかけているといってよい。輝やかなしい足跡をのこした山田文楽も、各地の古い郷土芸能と同様、後継者難という致命的な壁にぶちあたって滅亡寸前にきているのだ。

「いまの若い人は、人形浄瑠璃なんぞに理解がおまへんからなあ。後継者が現われたら、いつでもよろこんで教えたげまんねやけどなあ」

と、櫛田さんは嘆く。滅びゆく伝統芸能を座視するに忍びないのだ。

神戸市内に散在する農民芸能は、農業そのものの転換に歩を合わせて、目下急速に衰退しつつある。これらの保存は文化行政上の急務であるにもかかわらず、いまだにこれといった対策がたてられていないのはどういうわけだろう。地元の積極的な温存対策が要請されるのはもとよりのことだが、せめて現存する人形の完全保存だけでも早急に着手すべきではあるまいか。

わが子をいたわるように、老いた手で人形を撫でている櫛田さんの姿は、心なしかさびしげに見える。陽の当たらない場所でもた一つ、郷土芸能が消え去ろうとしているのだ。

取材班は複雑な感慨を抱きながら、夕暮れの迫った櫛田家を辞去した。

（次回は立抗焼です。）

個性ある自然なヘアを



株式会社美容室 **エリザベス**

本店 三宮神社山側三上ビル2F TEL 331-8894・4917

芦屋支店 芦屋市阪神芦屋駅前 TEL 0797-22-4067

西宮店 西宮市阪急西宮マンション北館1F TEL 0798-67-1294

お貸衣裳 **花嫁衣裳サロン**

畑尾美久子の店 生田神社前 TEL 331-3258

美容担当 (東京初代 遠藤波津子直流)

専属結婚式場 生田神社・オリエンタルホテル

阪急六甲山ホテル・住吉学園・蘇州園他

幸せな二人の
縁を結ぶ
結納儀式用品



結納儀式用品

遠藤福寿堂

神戸大丸姫路やまとやしき

そごう神戸店 姫路山陽百貨店

東店 トア・ロード那寿2階 TEL (391) 1871~3

西店 長田区市バス菅原東入る TEL (575) 2251~3

★対談——中西画伯安井賞受賞を祝って

土を原点として

中西 勝 〈画家・二紀会〉
赤根 和生 〈美術評論家〉

★土俗的なものへの回帰

赤根 おめでとうございました。月並だけれど、感想から、ひとつどうぞ。

中西 そうですね……。

赤根 これは非常に漠然とした、おまけにどうとも答えられることだから、かえって厄介だな。

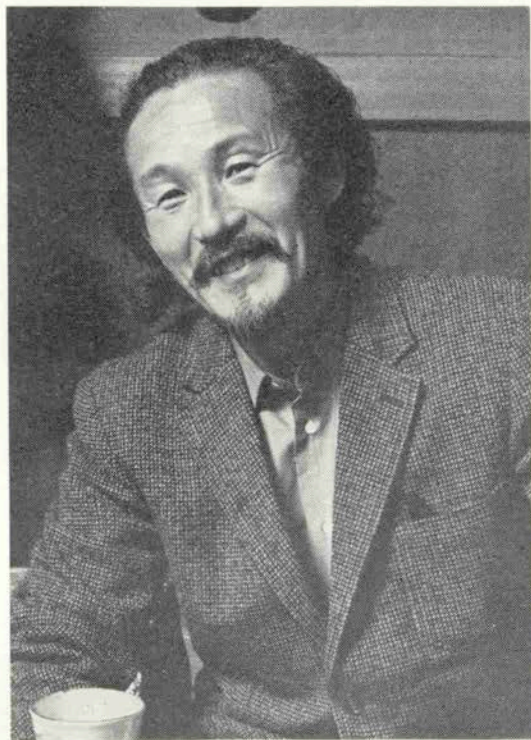
あなたは子年生れで、その当り年の劈頭に安井賞を受賞なさったんだから、これはおめでたい限りなんだけれども……。ほくも当り年で、今日はひとつ年男大いに語るということなだけどネ。

実は、ほくも安井賞の推薦委員なんで、あなたが帰国してからは毎回清き一票をいれてきたんで大変嬉しい。あれはひとりでも推薦があると候補にとりあげられるんですよ。向うで肥やして来たビジョンを日本の風土の中で一年間はぐくんて、それで出来てきた作品が対象となったわけで、向うの生活のにおいがまだ生々しい。これはやはり、安井賞の系列中でもかなり異色ですね。だから、ボンと当たったということじゃなくて、やはり長年の道程が実を結んだわけだし外国生活がかなり大きなウェイトを占めている。安井賞の対象は、具象に限られていて、中西さんは、長い間抽象をやってきたので、その対象にはなりにくかったんですが、向うへ行ってる間にはつきりと具象の姿勢をうちだした。だから改めてその対象となったわけですね。

中西 まあ、とったということは嬉しいといえは嬉しいですよ、卒直に言って。で、結局、支えにもなるし、

はげましになる。もひとつ言えばあまり喜んで有頂天になってもいかんしね。ちょっと喜ばないかんぞというような気持ちもありますしね(笑)

どちらかと言えば、行くまでのボクの絵というのは、抽象的なものと考えられていたし、それが外国旅行をして僻地などを回って、土俗的な生活に接していますとね、もともとボクはこんな土器類を集めていたでしょう。そういうものが生きて動いて生活しているところを見ますとすごくね、言うならば美術館で作品に接するよりもっと感銘をうけたということが言えると思います。ところが、ボク自身が行くまでに描いていた世界とね、この趣味であつめていたというかこういう絵のスタイルと違った色つや、形をしたものを、ムシが好いてあつめていたのですが、ところが、そういうものをみましてね、なんでオレはあれをそのまま絵にしなかったのだろうかと思ひましてね。ある意味において、これだけ感激しているし同時にああいったものを無意識ではないけれどもムシが好いてあつめていましたので、ボク自身の一番根本的な問題とその時点において感激していることが合致して、オレはこれでいかなければならない、という様なことをまず考え、それで帰って来て、ま、体の調子もあまり良くなかったのですが、落ちつきましたし、どちらかと言えは開きなおるような気持ちで描いたつもりなんです、この場合は。まあ、ボク考えますのにね、非常に単純な考え方でしょうけれども、赤ちゃんができると同時に母親になるわけでしょう、どんなに若くても。やっぱりそ



できるだけ展覧会へ行かないで……(中西さん)

らの母子像ではそういったものがだんだん少なくなって、そういったものが原点であるかも知れないけれど、もっとモードのある……。

赤根 そうですね。マリアがキリストを抱えている聖母子像は中世のイコン以来のテーマだけれど、ルネッサンスに入ってからでもシントリックな構図は皆無に近くて、ほとんどキリストが横っちょにチョンとついている。だから、今度の構図というのはかなり、こう……かなりどころか相当ひらきなおった構図ですね。

の当初の母親になった段階では、いい母親になりたいという意味で、例えば愛という言葉があるならばね、だれよりもいいお母さんになりたいと、その誰よりもということをもう少し分析して考えますとね、全人類始まって以来のお母さんでありたいということが、その願いの中には言葉じゃなくて感覚的にあるんじゃないかと、そういう意味でボク自身でも、一度そういうものにとりこんで、やってみないと、これで駄目だったら駄目でいいと、これを命がけでやってみたいという気持ちでした。受賞作を構図の面で、説明するのはあまり好みませんが、常識的、全く常識的と心掛けました。垂直線——真中ですね、そこに母親の頭と子供の頭があって、母親の手が水平線になっているんですね、それが平静な大地であったり母親の愛であったり——安定性ですね。そこへ子供がリスのようにチョッという、それがもう完全に左右シンメトリックな構成なんです。できるだけ平面的ではなく、立体的な重量感とか、そういったものを出したかったと……。考えてみますと、ルネサンスぐらいか

由紀夫じゃないけど原点をかいいたんだと。まったく常識だけど、案外ね、人間でものは原点、原点といいながら、本当の原点がわかっていくかどうかということがある。例えば土という問題でも、小学校で学んだり、親に教えてもらったりの程度の理解では駄目です。旅行してきますと、土といっても実に多種多様でスケールが大きく、想像を絶します。もっと本当の原点とか基本を精神的にもつかまえないければ、と考えました。それで駄目なら三島じゃないけど、本当に腹切って首切らねばならないと二紀会の小西保文君なんかと話していたんですが、それが、たまたま、賞とれたので、そんな意味で気持ちがいいですね。

赤根 安井賞というのは年中行事ですから、案外ずるずると決まっていくなということがあったわけですが、中西さんの場合は、一つの姿勢が決ったときに受賞なさったという点で今までにないケースですね。元町画廊の五人展の場合は、まだジブシーだったわけですが、それから落ちついて、大地とのつながりという愛の深い実感をカ



土俗と現代のかかわり合いを……(赤根さん)

それがちょうど、作品が地方を回っていたので、間に合わないし、宮本三郎画伯に電話したんです。どうしましょってね。そうしたら「なんの話しや」というわ

うのは、ある考えがあったって抽象的な絵を描いていましたから、二紀会から推せんされなかったでしょう。そんなことで、ある意味で安井賞については無関心だったのでも、もらったらどうなるなんてことは考えていなかったのです。日本に帰って、秋に百二十号のインディオの母子を発表しました。もしたら安井賞展の推選が来たのです。

タマリとして出したんじゃないかな。

さっき、あんまり喜びすぎないでという言葉がありましたが、案外安井賞もらった人がつぶれていくんですね引っ張りダコになったりで。でも、もっと若ければ有頂天になるかも知れませんが、向うからやってくるぐらいのつもりでいたのでしょうか。(笑)

中西 行くときは不景気な時代でしたから、相当ムリして金作って行きましたが、『行きはヨイヨイ帰りはコワイ』で、帰ったら、車に絵を積んで日本中、街頭展して食ってやろうというぐらいの気持ちでした。赤根 もともと、モチーフはちがっていても、なにをかくても土俗的なものもっていましたね。

それに同じ人間をかくても、幻想的なものとかエロチックなものかはやってますが、中西さんの場合は、うわついた幻想でもなければ時流にのったエロチシズムでもない。根源的な母子像、非常に土臭いという点で、原点の重みがあると思います。

★活字見るまでは信じなかった……

赤根 前の晩に東京から、電話でニュースが入ったものですから、当然、本人にも思っていたので、ま、次の朝でもと思って、ちょっとはやかっただけれど電話して、おめでとうと言うと奥さんが出ていらして「なんでしょうか？」ってわけで……。

中西 女房もボクも全然知らなかったんですよ。つまり発表は受賞式当日だろうと思いいたんです。だから二人で歩いていて、朝の三時ごろ帰ってきたんです。ところが朝八時に電話がかかってくるでしょう、「絵描きの家に朝から電話かけるなんて誰や」というわけで、それで知ったのですが。新聞みるまでは信じなかった。赤根 ボクもよく、かつぐからね……。信用ないんだ。

中西 陳舜臣さん、元町画廊の佐藤さん、御近所の人それに友人も父母もよろこんでくれていますね。それからたてつづけに電話がかかってきまして、みんなおめでとうというわけで、つい間違ひ電話にでも、ありがとうございますってね、習性になってしまつて。しかし受賞があればと反響を呼ぶとは思っていませんでしたね。とい

けで、安井賞ですという、「君、五十過ぎてるのちがうか。」いわれましてね。不審ながら出品したら三等でしたね。

赤根 五十定年というのは少しはやすぎると思いますね。あんまり若くて受賞すると、つぶれやすいですね。

でも、俗っぽい話しかけど当り年にあたったということはいいですね。こういうのは遅いほどいいと思いますね。そのあとが楽しみです。これからですね。

中西 都会生活してますとね、どうしても感覚的に向うで得たものがすりへって行くと思うんです。観念的になつていくということで。希望ですが、来年度、もう一度、ペルーあたりへ行つて土俗の生活をして止どめをさしたいですね。それで今度は日本的なものを、ま、自分の周辺ですわね、これをテーマにしたいと思っています。今は出来るだけ展覧会へ行かないようにしているんです。美術の本なども……で参考になるものといえは、こういった集めている土器類ですね、こういう土臭いものの中にいいところがあるので、そいつを吸収していくと……。でこんなものをまわりにおいて、モロッコとかペルーの音楽かけて、神経をちらさないようにして絵をかくていいます。

赤根 そういうものと現代のかかわり合いというものはどうなのかな？、その辺に興味がありますね。ペルーと日本との間が……。

中西 二紀会でスライドで写して批評会をやったんですがね。その時、鴨居玲君がいて、ボクの絵のインディオの服のシワがいいと言って、彼の言う不気味さがでている、そして中西君は縄文式土器を研究しているというんです。ところが反対でね、ボクは不気味さを嫌うし縄文土器よりも弥生の方が好きなんです。まろみのあるいうなれば、平静な愛とか、徹底したものです。そういう行き方をしたいわけです。徹底した優しさというのはいいですね。横井庄一さんのような生活はいいですね共感できます。

★「今出来」のものは……

中西 南米はメキシコ、グアテマラ。向うの方はモロッコ、トルコ、ギリシャ、ユーゴ、ブルガリアとまわりました。トルコあたりへくると、川をへだててイスタンブールがヨーロッパで、ウスクダラが東洋だなんてことをきました。それに、モロッコも絶対忘れられない国です。そんな風に、外へ出てみて生きている人間をみて、たしかめ、たしかめ、旅したのですが、たとえば、ゴッホとかゴーギャンとかがヒューマンな作家であるということ言われているんですが、なにか、その生きている僻地の人間をみますと芸術の作品以上にいいものを見えましたという気がするんです。

それに、ルネサンス以前のアイコンなどのように、サインもない作品に比べますと、ルネサンス以後のものは、何か、厚みに欠けるといいますか、「今出来」という感じがするんです。昔ものすごさといえますかね。ルネサンスあたりからキリストでも健康優良児みたいになってくるわけですよ。

赤根 問題はそういうものが過去にしかないかということですね。あるいは僻地という言葉い方は良くないけど、そういう場所にしかないかということですよ。

中西 そういうことですね。しかし、私はそれを全面的に肯定しているわけではなく、そこには古いしきたりがあった大変なわけです。衣装でも民族衣装以外着たら村八分にされるとかね。富裕な部落と貧しい部落がとなり合わせでありまして、どうして一緒にならないのかと思うとね。人間というのはこわいと思うことがいくらでもあります。それと、ちょっと面白かったのは、シベリア鉄道で帰って来ますと、このての顔が実に多いのに驚きました。日本よりも多いわけですから考えさせられますよ。

赤根 アメリカなど黒人問題はあっても、民族間の変な感情なんかまるでありませんからね。ヨーロッパは、又少し事情が違いますけれど……。

中西 アメリカというの、生まれると隣に黒人がいるでしょう。北はエキスモー、南はメキシコ、資源も豊富開拓の歴史もあるし、芸術もスケールが違うという感じ。

それで面白かったのは、ベニスのビエンナーレへ行ってみると、日本館は、まったくアメリカの最先端の絵が並んでるわけです。ところがアメリカはボール紙と泥絵具の不器用な細工で「ブロードウェイ」なんてのがおいてあってね……。ソビエト館は写実彫刻と宇宙遊泳の図画です。

赤根 ドイツ人と話したら、日本はすっぱりと過去をふりきって新しいものに変っていきける。しかしドイツはつねにクラシックでもって現代を解釈していく、常にクラシズムが根底にある。そこが違いだといっていました。日本は、アメリカならアメリカ一辺倒になってしまふ。よしあしは別としてそこがドイツと日本の違いだというんです。ベニス・ビエンナーレのパビリオンを見ると芸術に対する国の姿勢がわかりますね。日本館は、石橋さんの寄付でやっと建ったただけだ。

中西 なんか目先が利くというか……。エキスポでも校倉造りを鉄筋コンクリートで作って、中はテレビなんか並べて、本当にエコノミックアニマルという感じですね。目先が利きすぎて、すべてが商売に結びついてますよ。生きのびる力というのは、それはもう、すさまじいほどあさましいという感じに思えました。全く、黒沢明のドデスカデンです。

赤根 日本というものの本質がどこにあるのか我々自身、何かウス気味悪いですね。昔は朝鮮や中国、明治時代はドイツで、戦後はアメリカ……というわけですからね。

★拠点としての神戸

中西 ミュンヘンであった展覧会が、二紀会関西展のようになってしまっている。具象からシュールまで。赤根 ドイツはおもしろいですね、中央がないので。ミュンヘンはミュンヘン、シュツットガルトはシュツット

ガルト、そして、ケルン、ドュッセルドルフ、ハノーヴァー、ハンブルグ、ベルリンとそれぞれ作家がいて、批評家もいて、画廊がある。みんな対等で、それぞれ特色があるんです。いわゆる中心としての、東京とかニューヨークというものがないんですよ。そういう意味で神戸が文化の拠点となることに期待しますね。神戸は昔から開かれた土地で、最近でもメキシコが入ってきたりしていますからね……。〈笑〉

中西 陳舜臣さんにもいわれるように、海洋性といいますか、外に対して非常に敏感で活気づいていると思うんですよ。それに狭い場所で色々な人と顔を合わす機会も多いし、普段付き合えないような人にも気軽に会えるというところで、二紀会の中でも、静かな競争というか、あたかもかみがありますし、そんな気持ちをもつには都合がいいところですよ。

赤根 都合が良すぎて、エネルギーになる前に雲散霧消してしまふということがありますね。抵抗体としての不毛さが無さすぎると、前に神戸っ子に書いたことがあります。海があり、山があり、環境の方が良すぎて、一つの創造的なエネルギーに高まって行くまに散ってしまふということは大いにありますね。

中西 しかし、よどまないというのは神戸の特長ですね。大阪、東京などはよどんでしまつてね。

赤根 それと京都ですね。京都には非常に古いものがガンとありますので、それをこわそうとする新しいエネルギーがでてきます。それが神戸にはないんです。つまり、そのようなエネルギーが生れるための抵抗体がないのです、ぶちこわす対象が。だから、それをみずからの内に、各自が持つということが、非常に大事であると思います。いい意味でのローカリティを育てるために……。

〈文責・編集部〉

*中西勝画伯安井賞受賞記念パーティは、4月8日貿易センタービル24F「パーク」で開かれ盛況でした。次号でご紹介します。

SAVOY
LOUNGE

★神戸通が語る

KOBEあさ・ひる・よる



小林 新二 〈元町バザー社長〉
野村 正行 〈野村病院長〉
渡辺 利武 〈マキシム社長〉

サヴォイ 今日は、いつもご晶眞
いただいている方々に、お集まり
いただいて、神戸の良さというも
のを大いに語っていただこうと思
っています。

★須磨の朝、昼は街並、六甲の夜

それで、早速なんです、まず
景色から……。一日を三つにわけ
て朝から、どうでしょう。

小林 朝は須磨の海、昔はもっと
遠浅だったように憶えてますが……
。情緒的なものをあじわうとす
れば、西の方、舞子あたりやね。
野村 時は早朝、春なら薄暮がい
いでしょな。

渡辺 須磨浦観光ハウスからの眺
めはいいですね。料理もいいし。
小林 これは案外知られてません



若い人はやはり六甲……

〈小林さん〉

ね。ただしタクシーでないとちょ
っと不便だけれど……。東京の
人を案内したら喜んでくれました
よ。それはいい眺めですよ。
渡辺 ただ、近くに鉄筋がムキ出
してあるのがツヤ消しだけだね。
桜の時期は最高ですね。桜のトン
ネルになってね。
野村 あの辺が、須磨のかなめに
なるんでしょうね。住んで十年に
なりますが、昔の情緒はなくなり
ました。松が枯れてしまったの
が、おしいですね。
小林 今の若い人にアピールする
のは、やはり六甲山でしょうね。
これには市も金かけているようだ
し、東京の連中でも、二言めには
六甲といいますからね。
野村 キャッチフレーズもいいし

ね。百万弗の夜景とかいって……。

渡辺 バーベキューをやりながらだんだん暗くなっていったね、アジサイを通して街のあたりがチラチラと……だんだん増えていく風情はいいですね。

野村 須磨にもそれだけの資本を投下すればね。松風堂など、荒れ放題ですからね。

小林 いかにも車を通さないかを考えないと、もう駄目ですものね。

野村 須磨、舞子の松が枯れていくのがイメージダウンですね。それにオイルフェンス……。

渡辺 我田引水じゃないけど、トアロードの昼もいいですよ……。

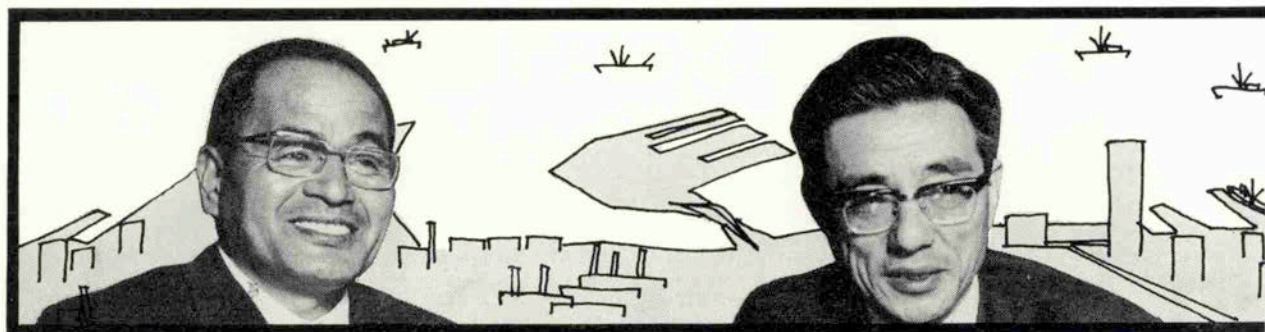
以前から神戸のシャンゼリゼにしたいと思いつけてるのですが。唯一の山から海への道ですし、外国にも名が知れていることだし、どうしても、歩道の幅が今の二倍は欲しいですね。

小林 シャンゼリゼの歩道なんか十数メートルの幅があるからね。

野村 それともう一つ、北野町の異人館界隈とトアロード、これはどうしても切りはなすわけにはいけませんね。

渡辺 トアホテルがなくなっちゃって、さびしいのですが、あの跡こそ、市でもって、なにか思い切った、現代的、世界的な、なにかが欲しいですね。

小林 最近では、そういうトアロー



トアロードは神戸のシャンゼリゼ……

〈渡辺さん〉

野村 ポクはああいうものには反対だな。神戸には駄目ですね。
小林 スマートさがないね。神戸らしいというのは、小磯さんに小松さんの画風でしょうね。
野村 デフォルメというのはマツチしないですね。神戸には……。
もつと、ウェットな感じを大事にしたいと思いますね。
小林 元町のスズラン灯をなつかしむようでは駄目ですけども……。

野村 元町、トアロード、センタ1街で商売している人が、この頃

須磨に目をむけて……

〈野村さん〉

ドラしい店ができていますね。
野村 北野町を描いた小松益喜さんなんかが、もう描いていないでしょう。だから、そういった意味でモチーフとなる店を作ることが結論でしょうな。

小林 トアロードは昔でも、洒落れた店構えというの wasn't なかった。ただ、その経営者にあちらの人が多かったということから、一つの特徴ができていましたね。外人の小母さんが、上海へ仕入れに行つて、売っているといった店が、いくらもありましたからね。

野村 商売をはなれても、絵になり、詩になる街になくしては。

渡辺 太陽の塔を神戸に持つてくるといふ話がありました……。
サヴオイ ポートアイランドへということでしたね。

野村 ポクはああいうものには反対だな。神戸には駄目ですね。

小林 スマートさがないね。神戸らしいというのは、小磯さんに小松さんの画風でしょうね。

野村 デフォルメというのはマツチしないですね。神戸には……。
もつと、ウェットな感じを大事にしたいと思いますね。

小林 元町のスズラン灯をなつかしむようでは駄目ですけども……。

野村 元町、トアロード、センタ1街で商売している人が、この頃

いうフィーリング、情緒を大事にしてほしいですね。

サヴォイ 朝は須磨の海、昼は街夜は六甲というところですね。ところで、海とか港は……。

小林 昨年、日米交換学生を、市の船の「大輪田」で港内一周したのですが、私もおどろきましたよ。ポर्टアイランドのすごさには。

野村 結局、ディスカバー・コーベということは、外から来た人に対して、何を見せるかということにもなりますが、そういった意味で、全国が平均化している今日では、ひきつける何かが必要でしょうね。

★神戸人とまつり

サヴォイ それでは、神戸の人間なんですけれど、例えば神戸を西と東に分けて、それぞれの違いといったものはあるでしょうか。

野村 そういうことは別に感じませんね。

サヴォイ 人間関係のことになりますが、神戸は、家族関係でも、割合、フランクである、まあ、嫁姑なんてことです。そういうわていますか……。

小林 やはり、それは多少あるかも知れませんがね。城下町というのは、それに比べて、古いものが守られているということがありますしね。そんな点で、ディスカバー

するには城下町のほうが都合がいいかも知れませんがね。神戸、横浜には、それがないのですね。

サヴォイ 食べ物が一番ですね。

小林 これは、もういうことなし

野村 須磨の駅へ降り立っただけで、空気からして違う。

サヴォイ 空気と水……。

野村 それを守る行政が……。

サヴォイ ところで神戸まつりがありますか……。

小林 都会の祭りというのは何をやっても盛り上がりませんね。神戸人は参加せずに見ているだけで

すね。これは、神戸に限らず銀座祭りでも同じことがいえますね。あれに銀座の人なんか出ていないでしょう。何かもう、大メーカ

の祭りといった感じで……。

野村 これは、やはり仕方ないんじゃないですか。阿波踊りのような核となるものがないですもの。

小林 ニースで、カーニバルにしようど、でくわしたけれど、日本

デーがあつて、街中が日本のディスプレイになっていましたよ。少しおかしい所もあったけれど、盛大なものでした。

サヴォイ ところで、夜の神戸では、どんな話……。

野村 夜は知らないよ。(笑)

渡辺 最近マジメ人間でね(笑)

野村 子供の頃は、親父につれられて、植木市なんか、よく行きま

したけれど、最近、ああいう雰囲気になくなったんじゃないでしょうかね。子供連れで、昔は元ブラとかいう文句がありましたよ。

小林 商店街も、昔は早くて九時

遅くて十時頃まで、みんなあけていましたからね。京都では、今でもかなり遅くまで、やっていますが、あれは、ごくわずかの人間で

人を使わずに、家族だけでやっているようなところが多いですからね……。それにやはり、よく働

ますね、京都の人は。

サヴォイ 神戸の飲み屋街つてのは、よそより魅力があるように思うんですが、どうでしょう。

野村 まあ、気取ったところがないですからね。あれこれ気を使うこともありませんね。

小林 他の、大阪や東京に比べて地元の人が多いので、大分、雰囲気違いますね。

渡辺 わりあい気の張る所へ行っても安いですね。

サヴォイ では神戸について、どんな面からでも結構ですけど。

小林 商売の話になりますけれども、神戸ほど専門店の多い所はないと思いますね。そして、それぞ

れに非常にシャープであるといえます。というのは、神戸は都市人口の伸びが少ないのでどうしても商売がむずかしいでしょう。そんなところで生き残って来た店だけ

に、そういうことがいえます。それにお客様もきびしいし……。

おシャレ人口が多いのも神戸ですね。その意味で東京が一番貧しい生活です。

渡辺 ここみたいに、女の子はいないけれど、楽しくほんとにいい酒を飲ませるといふ雰囲気がありますね。

★より魅力ある神戸に

野村 よくいわれることだけれど神戸が文化不毛の地とか、文化果つるところとか言われるけれども、これは違うんですよ。

今中央で活躍している人の中にも神戸に関係のある人は多いですからね。

ただ、活動の舞台が中央へ移っているだけでね……。その辺から神戸の体質をうかがえるかも知れません。

小林 それに地方からで来た人で、神戸をジャンプ台にして、活躍している人も多いですね。

野村 だから神戸人といっても、もっと絞りを調節する必要があるかも知れないですね。それから、将来の神戸ということですから、前に出た神戸祭りのこととも関連して思うんですが、いくらお膳立てして、思う方向へ引張って行こうとしても、結局誰もついてこないというようなことが

カクテルラウンジ

SAVOY
サヴォイ

TEL 331-2615

高梁山側 テキの店北



サヴォイで語る神戸の夜。

左より渡辺・野村・サヴォイ・小林の各氏

よくあるわけですね。

だから、みんなが神戸というものを認識してですね。つまりディスカバー・コーベということですからね。

それで、ハイマートというものを確めた上で、徐々に形づくられていくのが、将来の神戸というものであってほしいと思いますね。

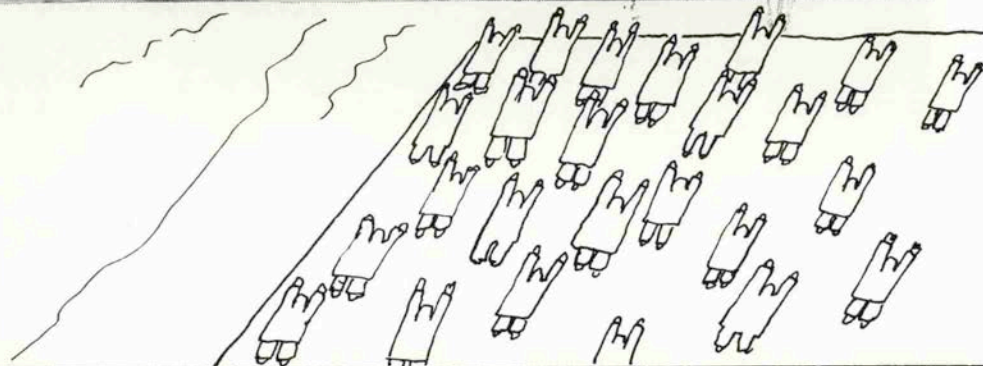
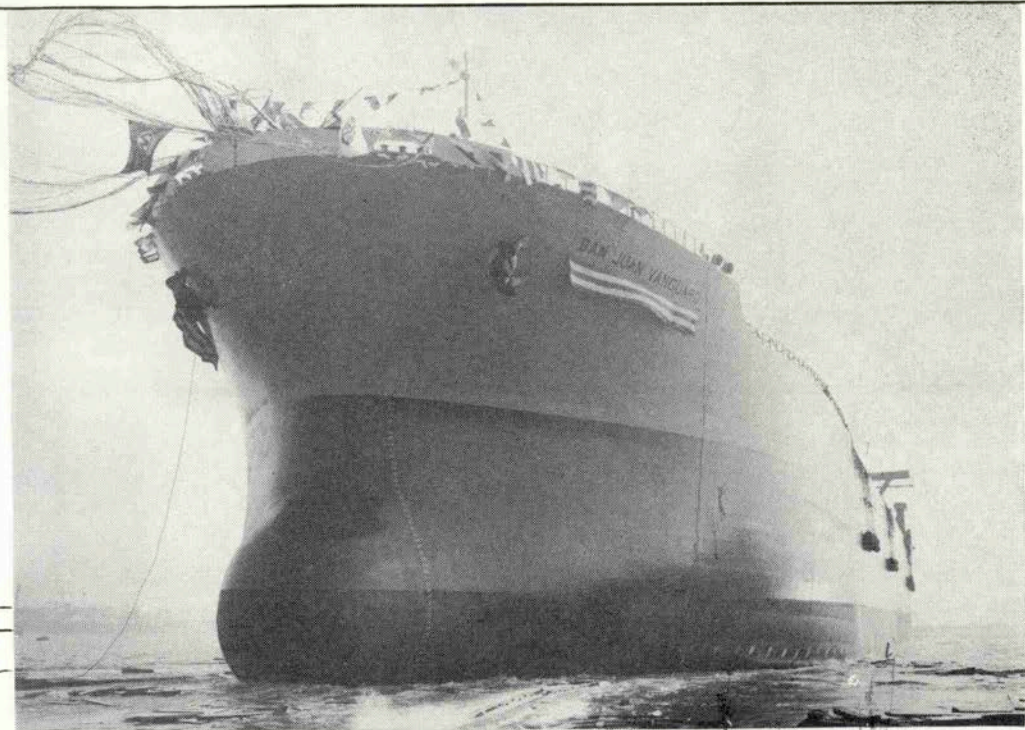
そうでないと、オリジナルなものとかいっても、結局、お仕着せでしかないということになると単なるお祭りさわぎで終わってしまうかねませんからね。

最近では、どうしてもフィーリングとかいって上っ面しかキャッチしてませんのね。住みよい街とかそういうことを、もっと落ちついた心で考え、反省することが結局、神戸の良さを伸ばしていくことにつながるのじゃないかな。

サヴォイ そうですね。そういうことが今一番必要かも知れませんが、神戸をもう一度見つめて、そしてハートのある街、神戸をつくって行こう、ということで今日は長い間ありがとうございました。
〈サヴォイにて〉

*

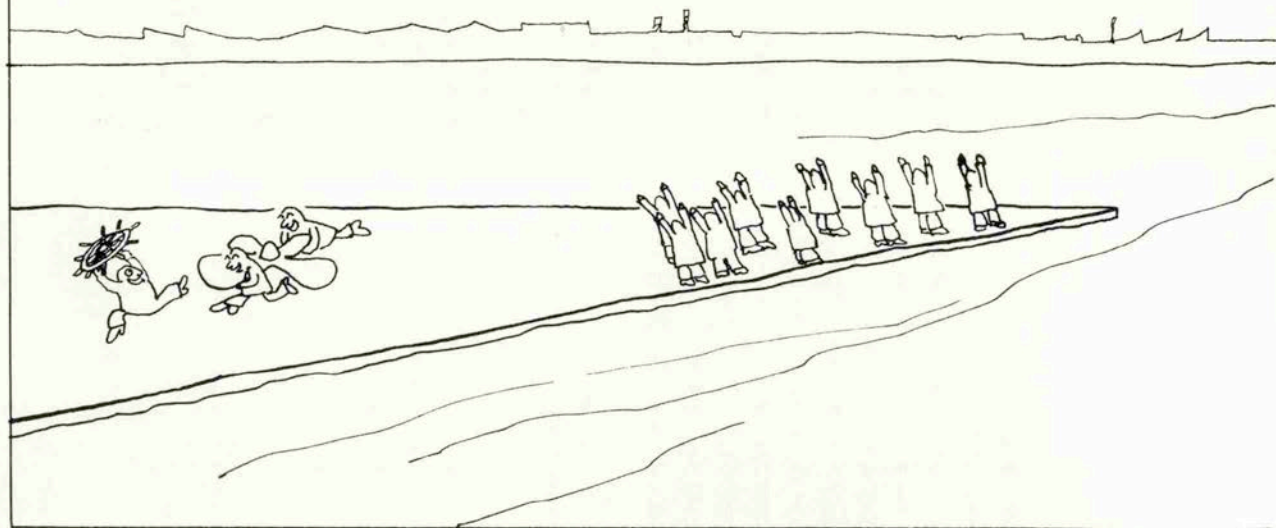
*



コラージュコミックス

5

進 水 式
岡 田 淳



淀長立見席5



男を見せる

淀川 長治 〈映画評論家〉



時計じかけのオレンジ

十三年前の「お嬢さんお手やわらかに」十二年前の「太陽がいつぱい」この二本のアラン・ドロンのフランス映画あたりから映画は女の主役から男の主役にその位置を変えた。

これは聞えがいいが、男たちが女を眺める……のではなく、女たちが男を眺める時代に移ったということである。

男が、やたらとヒゲを生やしだしたのは、もう女に勝てるのはヒゲしかなかったわけである。戦争は男の価値を落下させた。男の価値が下落したとき男は着飾ることで女にこびた。男が化粧をしその衣服はこりにこりはじめたが、それが時代の先きを走る映画の中に現われぬわけではない。

「真夜中のパーティー」は男だけが男の部屋で演じてきた男のみが知った秘密までも告白した。ソビエトの「チ

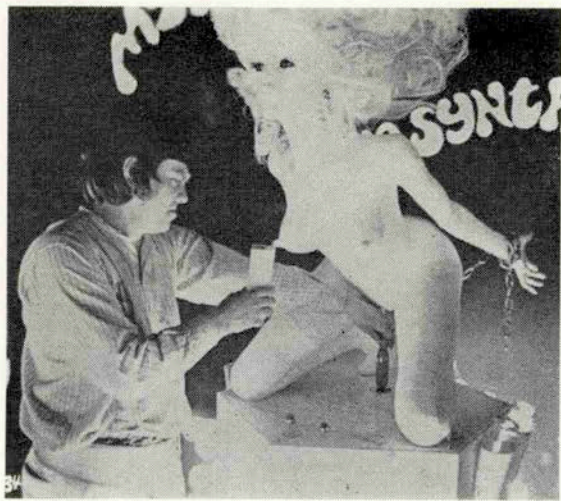
アイコフスキー」はイギリスのケン・ラッセル監督の手によって「恋人たちの曲」(ザ・ミュージック・ラヴ・アイズ)という華麗なる題名の下にチャイコフスキーがアントン・シロフスキー伯とのホモ関係のために苦悩にあぐ姿をあばく。

それで映画が男の時代に移った……とはゆめ申すまい。映画が女体から男体に移ったところ申したいのである。

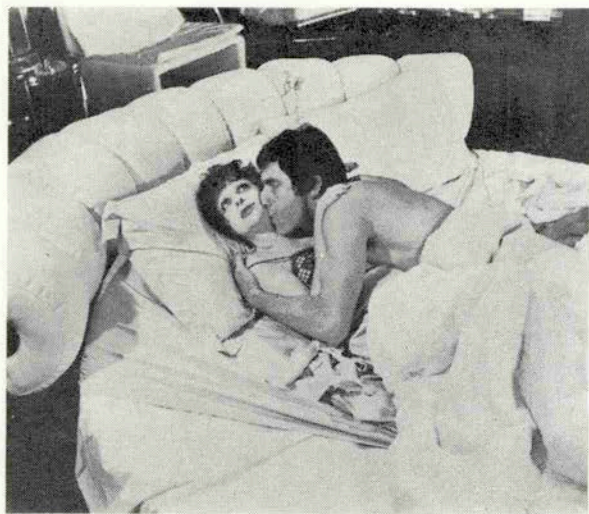
イタリア映画「エロチカ大作戦」はマルコ・ヴィカリオ製作・監督、ロッサナ・ポDESTa共演の、この御夫婦のプロデュース新作品。この夫婦コンビ作品には御存知「黄金の七人」シリーズがある。金塊泥棒、銀行泥棒。いうならば007映画の漫画スタイルである。ところがここにロッサナ・ポDESTa共演とあえて記したごとく、「エロチカ大作戦」はポDESTaを主役から落して巨漢のランド・ブツアンカを主役に置き変えてのこれまた堂々たる男の主演。しかも共演がポDESTaはじめシルヴァ・コシナその他あわせて六人の美女。この題名に肩書きがつく。曰く「黄金の七人・1+6」。この映画、田舎から都会屋敷に召使い奉行にやって来たその男の、そのアレが大変なシロモノ。いえそれが何とも申しかねるシロモノ。要するに男性のアレには二個のボールがありまして、そのそれがこの巨漢には三個あったという珍品。それが奥方たちの大評判。ついに彼女から彼女へとその

召使いは御使用に供せられ、さてその果ては……という可笑しなそれを無邪気スマーットに見せたのがこの映画。まさに主役は「男」。

ところがこれが「二〇〇一年宇宙の旅」のあの曲者監督スタンリー・キューブリックの近作「時計じかけのオレンジ」となりますとこれがもう全巻まさに「男」そのもののごときモダン・アート型の男性のアレ映画。時代は今から十一年くらい先きのお話。もうそのころは町の若者は暴力とセックスの明け暮れ。セックスもボルノなどという貧しくもいじけたものでない。サルマター着の男のアレをぶん殴る。その主人公が痛えと両手でそこを押える。いえそんなのはまだなまやさしい。女の部屋のモダンなインテリアのその棚の上の純白の大理石まがいの置物はもはやはっきりと大きな男のアレ。というこの映画、いったい何をお見せし何を語るか、そこにこの監督一流のすごい社会諷刺。彼の「博士の異常な愛情」は水爆を運ぶ軍人の突如の発狂。「二〇〇一年宇宙の旅」



黄金の7人1+6エロチカ大作戦



時計じかけのオレンジ

は人間がコンピューターに支配されての発狂。かくて今度の「時計じかけのオレンジ」は父は父でなく母は母でなく子は子でなく、その子たる若者に感じ得るものはない。もうセックスと暴力。そののはての刑務所。かくてその刑務所内での科学的洗脳。その結果この男はセックスに吐き気を感じ暴力に吐き気を感じ、いうならばゼロの状態の無存在に成り下がる。これを刑務所内の牧師が激しく抗議し再び彼をもとの彼に戻す……というそのストーリーは実はどうでもよろしいのであって……この映画、感じる映画。いまように申すフイーリング。その……感じることは「ウエスト・サイド物語」からすべての美しさをはぎとって、男だけの「ウエスト・サイド物語」の、その男も、全身その凡てが男のアレのごとき。なんとも男がここまで映画の画面にあふれ盛り上った作品は映画史上いまだかつてなく、なんとこのごろの映画は「男」に塗りつぶされたことか、それもジョン・ウエインの、あんな男そんなのではなく、男風呂の中の男たち。上品な女性観客はさぞかし怒りをもって、そして、全身を乗り出して、ごらんになるのではあるまいか。失礼。